

令和2年1月15日、スラバヤ日本人学校において第10回感染症研究国際ネットワーク市民講座を開催しました。

インドネシア共和国スラバヤ市において在留邦人を対象に感染症に関する市民講座を開催しました(13:00-15:00 参加者19名)。スラバヤ日本人学校とのジョイント企画としての開催は今回で3回目になります。主な参加対象者は同校の児童生徒の保護者でしたが、その他の邦人の参加も見られました。小さなお子さんでは自分で感染症を防ぐことは難しく、海外においては保護者自身の健康を守ることもより重要です。今年度も事前アンケートのご要望にお応えする形で、神戸大学大学院・科学技術イノベーション研究科 白川利朗教授が「薬剤耐性菌について」、神戸大学大学院保健学研究科 亀岡正典教授が「デング熱について」を講演しました。どちらもインドネシアの生活から切り離せない重要なテーマであったことから高い関心を寄せられていたようで、講演後には活発な質疑応答があり、講演者自身も市民の方々の心配事が学べるという貴重な機会となりました。途上国で暮らすことは日本とは異なる保健医療面での不安がありますが、今回のような市民講座等の機会を利用して情報を共有することが重要です。私たちも有意義な情報を発信していけるよう引き続き努めていきたいと思えます。

尚、本市民講座はアウトリーチ活動の一環として行われました。

